

かゆいところに手が届く子育て応援団！

ワーカーズ・コレクティブ キッズポケット（横須賀）

市民福祉サポートセンターの企画で、6月29日、梅雨空の中、横須賀の子育て支援のワーカーズ、キッズポケットを訪問した。



駅前の親子広場「愛らんど追浜」

まず最初に訪問したのは追浜駅前の商業ビル4階の親子のつどいの広場「愛らんど追浜」。駅を出ると商業ビルの窓に「役所屋」と表示が見える。「愛らんど追浜」はその役所窓口の隣に2004年から開所、2009年4月からキッズポケットが運営を受託している。役所窓口に隣接しているので、転居者にも分かりやすく利用しやすいという。これまで利用者ゼロの日はなく、多い月は述べ1,000人の利用者となるだけあって、10時の開所と同時に赤ちゃん連れのママが来所、お話を伺う間にも次々と増えてきた。暑い時期には涼みに来たり、夕食後にはパパを待って一緒に帰る…というのは駅前ならではのこと。土日にはパパと一緒に来て、ママが買い物や美容院などの用事を済ませるのを待つなど、待ち合わせの場に使われることも多いという。

年末年始の役所屋の休館日以外は毎日、朝10時から夜7時半までが開所時間。試行錯誤の末、3シフト制で運営している。広場事業のもう一つの役割は気になる親子の発見があると理事長の小室さんという。気になる親子がいる場合は行政とも連携しながら子育て

て家庭をそっと見守っている。

追浜駅から京急線でさらに20分、10個のトンネルを抜けて久里浜駅に到着。キッズポケットの事務所は久里浜駅前の商店街を抜けたところにある。ここでは派遣型の保育を中心に、週2日の月極めの「ぴよぴよ保育」と、週1日の「ポケットひろば」を行っている。月極め保育は週2日、3時間の保育だが、定員6人と少人数なので、1～2歳の入園前のならし保育として利用する人が多く、募集するとすぐにいっぱいになるそうだ。ひろばを利用していただくことで派遣型のヘルパー利用につながるなど、様々な方法で子育て支援の情報発信にも努めている。また、横須賀市では公設の学童保育がないので、設置場所や保育料なども保護者が決めて運営する形式をとっており、キッズポケットでは2つの小学校の放課後4時までの「わいわいスクール」の運営管理業務も担っている。

「子育てしやすいまちは、“待機児童がない”とか“児童手当が

理事長の小室卓恵さん
多い”ということではないと思う」と小室さん。地域の他団体と連携をとりながら、地域の人と共に子育て応援団の充実を図ってきた10年の実績を感じさせる言葉だ。自分のまちを住みやすいまちにできるかどうか、1人ひとりの市民の力の大切さを再確認した。

（市民福祉サポートセンター運営委員 松浦恵理子）

編集後記；6月7日、憲政記念会館で「ケアラー連盟」が発足した。会場での介護者の1人ひとりの発言の重みが、参加者の心の中に押し寄せてくる。ひと・まち社ではケアラー連盟の予備調査の入力・集計を受託した。介護保険制度導入によって、高齢者福祉は随分と社会化がすすんできたことを実感していたが、介護者の権利、社会的保障の問題、社会全体の福祉施策の底上げの必要性など、改めて課題の多さに立ち尽くす思いがする。政権交代の今、社会保障制度全体の枠組みを大きく見直す事が求められていることを再認識した。（M）

No！寝たきりデー 2010

仮題「介護保険は『生活』を支えるのか？」

～地域で暮らし続けるために～

日時：9月18日（土）11時～16時

会場：全国町村会館ホール

参加費：2,000円

申込：市民福祉サポートセンター
(03-5214-6426)